

## 特集「ネットワークⅢ」の発刊に寄せて

山本剛司

1992年にインターネットの商用利用が開始され、それまでは限定的であったコミュニケーション空間が一変して急速な拡がりを見せた。現在ではモバイルネットワークや無線LANの普及に伴い、日常あらゆる場所で様々なシーンにてマルチメディアのコミュニケーション利用ができるまでにネットワークインフラは整備されている。また、スマートフォンの普及やクラウドの利用が進むにつれて通信トラフィックは増加の一途を辿っており、今後はIoT (Internet of Things) やM2M (Machine to Machine) といわれる新たな市場要求を受けてさらなる拡大が見込まれる。

サービスプロバイダはこの膨大且つ多種多様なトラフィックへの対応として、データセンタの強化や再配備を手掛けるとともに、SDN (Software-Defined Network) やNFV (Network Functions Virtualization) 等のネットワーク仮想化技術を採用するなど、ネットワークインフラを抜本的に見直す時期に差し掛かっている。

また、一般企業においても、クラウド (パブリック/プライベート) への移行やコミュニケーションインフラの活用、更にはリスク対策強化としてセキュリティ機能を見直すなど、ネットワーク要件を見直すべき事案が増加してきている。

今年 (2015年) の大きな市場動向としては、2月のNTT東西による光アクセス回線のサービス卸開始による新規プレイヤーのB2B2Cモデル (光コラボレーションモデル) 市場への参入や、5月の総務省によるスマートフォン等の携帯端末のSIMロック解除義務化を受けてのMVNO (Mobile Virtual Network Operator) の活況化などがあげられる。また、3月にスペインのバルセロナで開催されたモバイル業界の世界最大のイベントであるMWC2015 (Mobile World Congress 2015) では、業界各社から次世代移動通信システムである5Gへの取り組み、IoTやM2Mでの活用や免許不要帯域でのLTE (Long Term Evolution) 利用等々が展示されており、日本では2020年までには部分的なリリースが想定される。

1985年の通信の自由化 (日本電信電話公社の民営化) から30年、ユニアデックスは技術革新の各所においてその変化に追随しながら顧客の要望に応えるサービスを提供し続けてきた。ユニアデックスとネットマークスの統合により生まれた新生ユニアデックスは、ネットワーク技術を強みとする企業として、今後も拡大するネットワークインテグレーション領域に対応してクラウド/モバイル/ビッグデータ等のニーズに適合するソリューションサービスを提供していく所存である。

今号では通信事業者のネットワークインフラ技術やネットワークの仮想化技術、さらに無線LAN、UC (Unified Communication)、ネットワークセキュリティに関する各種ソリューションを紹介する。今後のネットワークインフラの検討に向けて参考になれば幸いである。

(ユニアデックス株式会社 執行役員)